

◇最近の研究成果 ～現場で普及するセレクト20～

和歌山発の良食味・多収なオリジナル品種「まりひめ」の育成

プレミアム品質で「まりひめ」ブランドが確立

研究開発の背景

- ◇県内主要品種「さちのか」は食味や日持ち性に優れるが、収穫開始時期が12月下旬で遅く、収量性が低いことが問題であった。
- ◇イチゴ主産県で県独自のオリジナル品種が育成され、全国で品種競争が激化。
- ◇産地では、新たな収益性の高い品種の導入や市場での有利販売のため、県オリジナル品種の開発が望まれていた。

研究成果の内容

高糖度で良食味、多収の大玉品種

○育成経過

- ・交配親は、母親「章姫」と父親「さちのか」で、平成22年3月に品種登録された。

○品種特性

- ・果実の着色は良く、果実内部もやや赤く着色する。
- ・糖度は、Brix9以上で安定して高く、酸度は「さちのか」より低い。
- ・平均一果重は19.3gで上物率が高く、大果で市場性の高い2L級中心の階級構成。
- ・炭疽病に弱く、雨よけベンチアップ育苗など十分な対策が必要。

○特性と生産技術をマニュアル化（2012年）



表1 品種と規格別収量、上物率および平均一果重

品種	規格別収量(g/株)			合計	上物率 (%)	平均一果重 (g)
	上	下	S			
まりひめ	749.9	74.4	95.7	920.0	81.5	19.3
さちのか	394.8	85.0	140.1	619.8	63.7	15.8
章姫	511.8	48.6	168.0	728.4	70.3	15.1

注)定植:2006年9月14日('さちのか'のみ9月15日)、加温:夜間最低5℃(朝夕は10~12℃)、電照:12月25日~2月15日(15時間日長)、規格:上は13g以上の正形果、下は13g以上の変形果、Sは9~12g、上物率は合計に占める上物の割合。

産地の状況

○栽培面積は拡大中

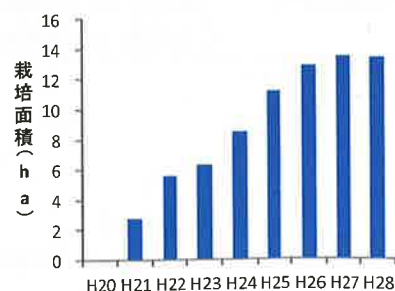
栽培面積は約14haで県内イチゴ栽培面積の30%を占める。
生産額:約6億円(推定)。

○大玉高品質規格品を開発

まりひめプレミアム『毬姫様』を開発し、ブランド化を促進。

○新規栽培者が増加

「まりひめ」の高設栽培が拡大。



期待される効果

☆大玉・高品質生産、プレミアム出荷により、「まりひめ」ブランドが確立し、競争力、収益性が向上。